

### ■OECD：2011年版レッドブック「ウランは100年以上供給可能」

OECD-NEA と国際原子力機関 (IAEA) は 2012 年 7 月 26 日、2011 年版「レッドブック」発刊の共同会見において、ウラン資源は今後も長期にわたり供給可能である、と述べた。通常レッドブックとして知られる「ウラン 2011：資源、生産と需要」は、両機関により現在 2 年ごとに発刊されており、今回の第 24 版では、ウランの探鉱から原子炉での使用までの需給に関する 2010 年末時点での公式データが示されている。採掘費用の上昇により低コスト資源が大幅に減少したものの、回収コストが 260 ドル/kg までの発見資源 (identified resources) 合計は、2009 年版に比べ 12% 強増加し、7,096,600tU であった。これは、世界の原子力発電所を 100 年以上運転するのに十分な量である。未発見資源 (undiscovered resources：地質学的知識に基づくと存在が期待できるが、これを確認するにはかなりの探査を要するとされる資源) は、10,400,500tU とされている。2010 年末現在、世界の運転中の商業用原子炉は 440 基 (設備容量 375GWE) で、年間 63,875 tU のウランが使われており、2035 年までに 540GWE~746 GWE に増加し、年間使用量は 97,645 tU~136,385 tU になると予測されている。